

第2520地区  
  
 ひろがれ  
 まわれ  
 一つ心に  
 2018~2019

**MORIOKA**  
 ROTARY CLUB WEEKLY

第41回例会(6月7日)  
 令和元年6月14日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 会 長 坂本 広行  
 川徳デパート内 幹 事 藤村 吉隆  
 例会 場 同上 TEL 019 (651) 1111(代) 会 報 吉田 幸一  
 例会 日 毎週金曜日12時30分~ クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682  
 http://www.morioka-rc.jp/ FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ BE THE INSPIRATION:インスピレーションになろう…ハリー・ラン  
 盛岡RC会長テーマ -80年の歴史と伝統、繋いでいこう奉仕と友情-坂本広行



ゲスト卓話

**インクル子ども食堂 活動報告**

特定非営利活動法人  
 インクルいわて 理事長

山屋 理恵 様

スピーカー紹介

インクルいわてさんはひとり親世帯の親と子が楽しく健康で文化的な生活を自ら歩むことが出来るよう、ひとり親世帯と地域住民を対象に、就業支援事業、生活支援事業、地域連携事業等を行うことで、ひとり親世帯の親と子が貧困に陥らず、差別、偏見、社会的排除にさらされることのない包摂された社会を目指して活動されています。理事長である山屋さんは内閣府の男女共同参画推進員も務められるなど幅広く活躍されております。

盛岡ロータリークラブの皆さま、いつもインクル子ども食堂に多くのあたたかい応援をいただき、ありがとうございます。皆様のご支援のおかげで私たちの活動を通じて子ども達、ひとり親家庭、子育て世帯の皆さんへの応援が充実し、実りあるものになっておりますことに心から感謝申し上げます。

**さだまさしさんコンサート**

ご招待いただきましてありがとうございます。素敵な時間をいただくことが出来たみなさんの感想をお届けいたします。

初めてさだまさしさんのコンサートに参加した中学生さんが「コンサートは初めてであり歌を知らなかったのですがとても感動し、お話し面白くて楽しめました♪」20代の女性は「昔、親が好きだと言っていたのを聞いていたのでいつかコンサートに行けたらと思っていました。夢が叶いました。感激しました。今度は自分でチケット代を支払って聴けるようにがんばります。ますますファンになりました♪」母子で参加した方は「二人でコンサートに行ったのは何年ぶりでしょう？音楽は年代を超えて伝わるのですね。とても嬉しくて、久しぶりに良い時間を過ごすことが出来ました。親子の素敵な思い出が増えました。ありがとうございました。」また、ご自身も大変なのにないつもボランティアしてくださる方からは「さださんがとても温かく子ども食堂のPRもされていたので、より多くの方にこの活動が認知されたのではと期待しました。ロータリークラブさんのお心づかいはとても感動しました。ありがとうございました。また何かしらの形でご協力できればと思っております。」などみなさんととても感

激されておりました。さださんのコンサートとこの機会を心に刻みつけていました。素晴らしい音楽をみんなで共有するという同じ思い出をつくれるということは大きな心の糧になるのだと思いました。素晴らしい機会をありがとうございました。

**子ども食堂の取り組み ポイント1.**

非認知能力を高めること

今、大きな問題となっている子どもの貧困や、子育て課題の解決には、ポイントが2つあるといえます。このポイントに合わせて子ども食堂を展開しております。

課題解決のポイント1つ目の「適正な社会的継続と非認知の能力を高めること」とあります。その非認知能力を高めるには「基本的信頼」が基盤になっているのだそうです。つまり、人を信頼すること、信頼できることが基本となっていて、それは人と関わることでしか獲得できません。そこで「人と関わるしくみ」の1つとして地域の誰もが参加してつくる「インクル子ども食堂」を開催しています。この子ども食堂には2種類のプログラムを入れ込んでいます。

1種類目は地元企業さんに力を貸してもらって、職業観を広げることを目的とした「しゃいん食堂プログラム」2種類目は身近な学生さんから力をもらって学ぶことの楽しさを知る「がくせい食堂プログラム」です。

**子ども食堂の取り組み ポイント2.**

子ども支援だけでなく親支援が重要

つまり家族丸ごとを支えることが重要ということです。専門的な支援が必要です。そこで誰もが参加する子ども食堂とはちょっと違っていま

す。ひとり親家庭の方々のみを対象に、専門の相談員がいてまるごと支える小さなこども食堂を「インクルすてーしょん」と名前をつけて実施しております。

これらの取り組みを助成を受け実施してきました。しかし助成金は、一番大切な食材費に充てることができなかつたり、他にも参加者のための交通費や3万円を超えるものの購入ができないなど多くの制約があり、なかなか参加できない子ども達の夢と希望を叶えるためにはご支援がなければできませんでした。本当にありがとうございました。

### 「しゃいん食堂プログラム」の実施報告

毎月1回、地元の企業・団体と協力して子どもたちの職業観や未来観をはぐくみ、地域で働く大人や仕事を知るための食堂です。実施例をあげていきますと、岩手電力さんからは「デンキをつくらう」と自分たちで自転車をこいで発電し炊飯器でご飯を炊くワクワクした体験ができました。和菓子の竹芳さんは「和菓子作り体験」として日本古来の文化のお話をいただきながら自分たちで作った美しい和菓子をいただき、盲学校に通うお子さんとご家族もいらっしゃって新しいお友達もできました。

盛岡グランドホテルさんは「テーブルセッティング体験」ホテルは子どもたちにとってドキドキする不思議で特別な場所のようです。将来友達と食事をしてもらえずかしくないね、楽しく食べることもマナーなんだね！と声がでていました。

巴染工さんは「染物体験」教えていただいた職人さんは高校でデザインを勉強しているときに染め物に興味を持ち、自分で巴染工さんを探して就職したそうです。やりがいを感じて仕事をしているお話を興味深く皆で聴きました。

網張ビクターセンターさんは「どんぐりの森の大冒険」と題して岩手山地区パークボランティアさんにも協力をいただきました。相の沢キャンプ場にある「どんぐりの森」の中をクイズをしたり、木の幹の太さを測ったり、植物の名前を教えてくださいながらウォークラリーをしました。昼食は七輪で火おこしをして、バーベキューを楽しみました。なかなか親子二人だけだと野外体験はハードルが高く、とても嬉しい機会だったという声が多くありました。

アート不動産さんは「あかりの灯る家を、自分たちの街につくってみよう！」模造紙の街の地図の土地を、おもちゃのお札で買って権利書をもらい、自分で作った模型のお家を並べて、街をつくりました。希望する土地は高額で買えなかつたり、

抽選で決まったりするなど、現実の不動産売買と同じような体験をすることが出来ました。しゃいん食堂は新入社員の研修のひとつにもなっているそうです。

佐藤農園さんは「りんご収穫体験」りんご畑の匂いに「この匂いなあに?」「土の匂いだよ」と答えると、「初めて!」と感激していた子もいました。

電気工事組合盛岡支部青年部さんは「もうすぐクリスマス、サンタさんが迷わない様に、目印になるLEDランプを作ろう!」でした。

電気の安全について、手作りの紙芝居で、楽しく教えていただき、クラフトテープをお家の形に編んで中にLEDを入れたランプを作りました。普段青年部の皆さんが仕事で使っている工具を実際に身に着けてみる体験では将来は電気関係の仕事に就きたいという男の子が得意げな顔をしていました。最初は緊張の面持ちの青年部の皆さんでしたが、子どもたちと接しているうちに、とても柔らかな笑顔で子どもたちとすっかり仲良くなっていらしたのが印象的でした。

いわて生活協同組合さんは食品添加物について教えてくださいました。食品添加物と水だけで作るジュースに果汁が入らなくてもオレンジの味ができることに子どもたちは驚いた様子でした。食品を買うときは絶対、裏の表示を見ようと思う」と話していました。

盛岡市動物公園さんからは「飼育員さんの一日」飼育員さんから一日のお仕事を説明してもらいました。初めて触れる動物にこわごわ触る子や、ペットを飼うことも少ないようで、ウサギを抱っこしていたらウンチをされて驚いている子もいました。

岩手県保険医協会・ゆいとびあ歯科医院さんの「「健口」になる!魔法の3STEP」では①歯磨き②ごはんやおやつを食べ方③痛くならないために歯医者さんに行こうというお話でした。「親子で一緒に同じ勉強ができてよかった」「歯磨きが楽しくなった」と感想がありました。

マクロビオティック&フレンチレストランウサギボタニカさんは「旬の食材を食べると元気が湧いてくる!」人気のマクロビ料理で旬の食材をいただく素晴らしさを教えてくださいました。初めて調理をする子も多く材料を洗うこと、切ることはもちろん野菜を直接手で触ることも初めてという子もいました。粘り芋で手がかゆくなったり野菜を炒める音を聞くことや、煮ているときの匂いを嗅ぐことも初めての体験という子もいました。おばあちゃんと一緒に来た子は「疲れて帰って来

るお母さんのために、美味しいスープを作ってもらいたい」と話していました。

このようにしゃいん食堂プログラムでは様々な職業を知りたくさんの働いている人との交流と体験から、親は子どもの将来の可能性の大きさに気づき、子どもは「やればできる」など自己肯定感が高まり将来への希望も見出しているようです。協力いただいた企業さんからは、社員研修の場にもなり自社の社員や地域の子もたちに対する関心が高くなったこと、社員さんからは、今まで知らなかった課題を知り、子どもとの触れ合いが嬉しかったとの声が寄せられました。

## 2つ目のプログラム「がくせい食堂」

このプログラムは盛岡近郊の4つの大学、岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、岩手医科大学にご協力いただきました。

「がくせい食堂」は、子どもたちにとって大学という場を知ること、また「学ぶ」ということを体験するものです。

岩手大学教育推進機構グローバル教育センター准教授平井華代先生とフィリピンに海外研修に行く学生さんの事前研修を兼ねての企画「えいごであそぼう！」一緒に学食でセルフサービスの食事を楽しみ、教室に移動して食べ物、生き物、自然などフィリピンを知るクイズに挑戦しました。外国の文化や言葉を知ることによって日本の文化を再認識する機会になりました。

次は岩手医科大学 サークルIFMSA-Iwate (国際医学生連盟) さんです。

「カラダを病気から守ろう！」手洗の大切さをアニメで紹介して、みんな「手洗い歌」に合わせてやってみました。そのあとは注射やお薬の大切さ、食事の栄養バランスのお話があり、ばい菌と白血球が戦うというとても楽しい寸劇もありました。お勉強の後は楽しいゲームで盛り上がり子どもたちの夢も膨らんでいました。

盛岡大学栄養科学部、食の輪サークル・アノ (~anneau~) さんは「いつもと違うおやつ!? お菓子の中身はなんだろう?」「おやつってなあ~に?」というしおりを作ってくれました。そのしおりに基に、おやつの意味や一日のおやつを目安量を学生さんがスケッチブックに書いた絵や図を見せながらわかりやすく説明してくれました。ポテトチップス1袋を全部食べたなら1日分のおやつ量はオーバーですよ、とのお話で「えっ!」との声が続出していました。

岩手県立大学社会福祉学部の皆さんは「大学探検&雪遊び!」大学探検では全国的にも数が少ない無響室にも入ってみました。大きな声で叫んで

も、大きな声に聞こえない不思議な体験をしました。その他各学部の実習室などを見学しました。看護学部の実習室には赤ちゃんのお人形があり、抱っこしてみました。顔色の悪い病気の赤ちゃんのリアルさに、怖いと泣き出す子もいました。探検後は保育士さんになるための勉強をするプレイルームで楽しく遊びました。さまざまな福祉の学びの現場を体験することが出来ました。

## インクルすてーしょん

ひとり親家庭限定の生活丸ごと応援食堂です。専門スタッフが個別に話しを聞いて、問題点を整理しながら一緒に解決策を考え、必要であれば専門機関へ繋がります。

「こんにちは!」「いらっしゃーい!」と元気な挨拶から、手洗いうがいをして、受付を済ませると「きょうは何するの?!」と元気な声が飛び交います。まず学生ボランティアに抱き付き「あいたかったあー!」子どももお母さんも、自由にリラックスして生活、相談、遊び、団らんまるごと一緒に過ごす場所です。

## 生活おたすけプログラム

準備ができなかったから入学式を欠席したという声を受けて、制服、学用品の提供、スーツ、などセレモニーで着用する親子の服を集めて、無料レンタルや新品のランドセルの提供も実施しております。これは、地域の方々、企業、行政職員の皆さんが、声を掛け合って集めて下さったものです。必要な方が声かけやすいようにこども食堂の会場で展示するコーナーを設けております。ランドセルは高額であることから、入学直前まで用意できず、ご相談に見えられた例もごございます。昨年度は7個のランドセルを提供させていただきました。制服の提供とセレモニースーツのレンタルは30件ほどのお問い合わせをいただきましたが、マッチングできたのは半数の15件ほどでした。現在もいろいろと制服の他にも学用品など要望があります。そんな時にもご寄付で提供することができます。

## 活動を通しての感想

アンケートでは「子どもに普段できない経験をさせること、親が教えられないことを教えてもらうのが有難い。」「会社の人の顔が見えることでお仕事が良く理解できるし、自分の地域を好きになることができる。」「僕たちを応援してくれる人たちがこんなにかっこいいことを知って嬉しくなった。」「(見た目だけでなく...)「多様な人と出会うようになり子どもが明るくなった。」「親子共通の体験をすることにより会話が増えた。」「毎回の体験を通し何事もやってみようという気になってく

れた。」との感想が多く寄せられました。子どもたちからは「お母さんが楽しそうだった・嬉しそうだった。」という声も少なくありませんでした。がくせい食堂では楽しく遊びながらも、大学で学んでいることを教えてくれる学生の姿にあこがれを持ったようです。

また一人親家庭からは「休日に親子で過ごすケンカになることも多く、車がなく遠くへもでかけられないので親子共に楽しみにしている。」「おもちゃは買ってあげられないけれど思い出は沢山プレゼントしたいのでイベントには必ず参加するようにしている。」との声があります。

**子どもたちの豊かな人生への基盤づくり**

**様々な体験を通して**

大変な思いをしながらも、毎日頑張っている子どもたちに、私たちができること、また、地域の

人たちや、多くの方々のお力をいただいて、共にこの街で生きる一員として一緒に前を向いて生きるために何ができるのかを模索していこうと思っています。こども食堂はいわゆる一般的な食事をとれない子がおなかを満たして帰る場所ではありません。課題を抱えがちなひとり親家庭、子育て世帯の一番の生きにくさは「孤立」です。そして誰もがいろんな課題をもっており、そんな時、ひとりにならない誰もが関わりあえる居場所をもつことが必要なのだと思います。そんな「場」は地域のすべての人にとっても居場所になり、少子高齢化、人口減少時代に不可欠な場になると思っています。こども食堂はまさにそういった「場」の一つです。ロータリーさんからのご支援は、確実に多くの子ども達、ご家庭、そして地域へ届いております。本当にありがとうございました。

**例会報告**

**第41回例会**  
令和元年6月7日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 坂本広行会長
- ・国歌 君が代
- ・ロータリーソング (奉仕の理想)
- ・ゲスト 山屋理恵様 (インクルいわて 理事長)
- ・会長報告 坂本広行会長
- ・新入会員紹介 安川慎治会員 (住友生命保険相互会社 盛岡支社長)
- ・皆出席バッチ
- ・近藤 駿君 (33年)・大久保嘉二君 (1年)
- ・入会祝 近藤 駿・藤村吉隆・川村勝浩・大久保嘉二君
- ・誕生祝 佐藤義正・勝 雅行・眞下卓也君

- ・結婚祝 福田荘介・米内 正・晴山和泰君
- ・幹事報告 藤村吉隆幹事
- ・終了後定例理事会
- ・委員会報告

**[他クラブ例会変更のお知らせ]**

- 盛岡南R.C.=
- 6月18日(火)は通常昼例会
- 今年度最終例会のため
- 18:30~時間変更
- 6月25日(火)は特別休会

**[ニコニコBOX]**

- ◆小川 惇君…今月(6月)号のガバナーマンスリーレターの14頁を見たら、坂本会長がシャレタかっこうで、えがおの写りが載っているとと思ったら、オクラホマの外人でした。よく似ていたのでニコニコします。

- ◆栗田 均君…本日の例会はスケジュールが重なり欠席させていただきます。私事で恐縮ですが、6月末で退任し、盛岡を離れることとなりました。

盛岡ロータリークラブの皆様には温かく迎え入れていただき、そして仲良く接していただき大変感謝しております。おかげさまで、大変充実した盛岡の3年間でした。7月からはグループ会社に入社し札幌での勤務となります。是非、北海道にいらっしゃる際にはお声がけいただきたいと思っております。次回の例会は出席する予定でおりますが、まずもって盛岡ロータリークラブ、そして会員の皆様の益々のご発展を祈念するとともに、これまでお付き合いいただいたことに心から感謝申し上げてニコニコします。

**出席報告**

会員数/77名

出席数/43名

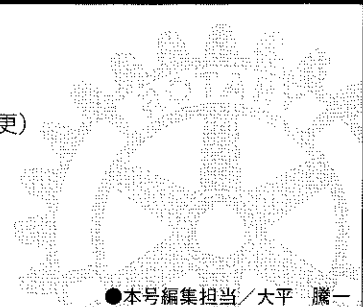
出席率/58.11%

前々回/休会



**プログラムのお知らせ**

- ・6月14日(金) 第4回クラブアッセンブリー
- 20日(木) ターミネートパーティー (21日例会変更)
- 28日(金) 特別休会
- ・7月5日(金) 新理事役員挨拶
- 12日(金) ガバナー公式訪問
- 19日(金) 第1回クラブアッセンブリー



●本号編集担当/大平 謙一